< 5
4519

ヘ5
4519

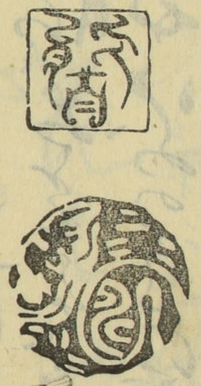
門 ヘ5
號 4519
巻

昭和十一年
二月二十四日
[illegible]

11-2-2

[illegible]敬

五柏老人は篤實の君子なり
[illegible]
[illegible]
[illegible]諸方[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



又所坊ちゝ採筆於
小菴之小窓

五柏園丈水遺章

句集數卷曾在東都親族之家爲囲禄見奪焉祇僅二其前其後四五卷之匱本存之今就其中以撰定之而已嗚呼可惜哉也

春

代々乃つ松をどもぬ板をれ
板咲や咲も淋乃嘶しきの
学や石切山結仰ふ谷
きけしけや何の儲乃古稀哉

長橋の鶴ニ鷹の鳴ぎて横
世中乃見まきハ横の盛りも
白浪乃寧ひ止ミぬ葬しぞ里
清瀬の供や梵語をしるべき言語
蜻ぐるは極りなぐ世を花の上

陋巷春暮のんぬ

まさくれる住安ぎ行ふ苦惱を

夏

更に春をしらしめ行ふ

卯乃花を学ぶ遊ぬ・山路の那
寺社を打ても一回の牡丹寺
ケ川蟬や松の調のけるも時
雪を借る物すべ備しり象月の
黒きしを男いらん生田の忍笠
高ぬ園麻あるじハ紙衣を人れ
麻めるの又めづらしき謙の角
けしのぢや抱きもよるべ沙の上
川鶴の初ぬくしり夏をしく

秋

草むし露のそなるや星迎へ
分れのかなしつゆりのつゝ[illegible]さよ
[illegible]日二百十日もきの無り[illegible]
[illegible]塚[illegible]也 盆の果テ
雁 関こゑ 竜すゝふ関[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]
月[illegible]

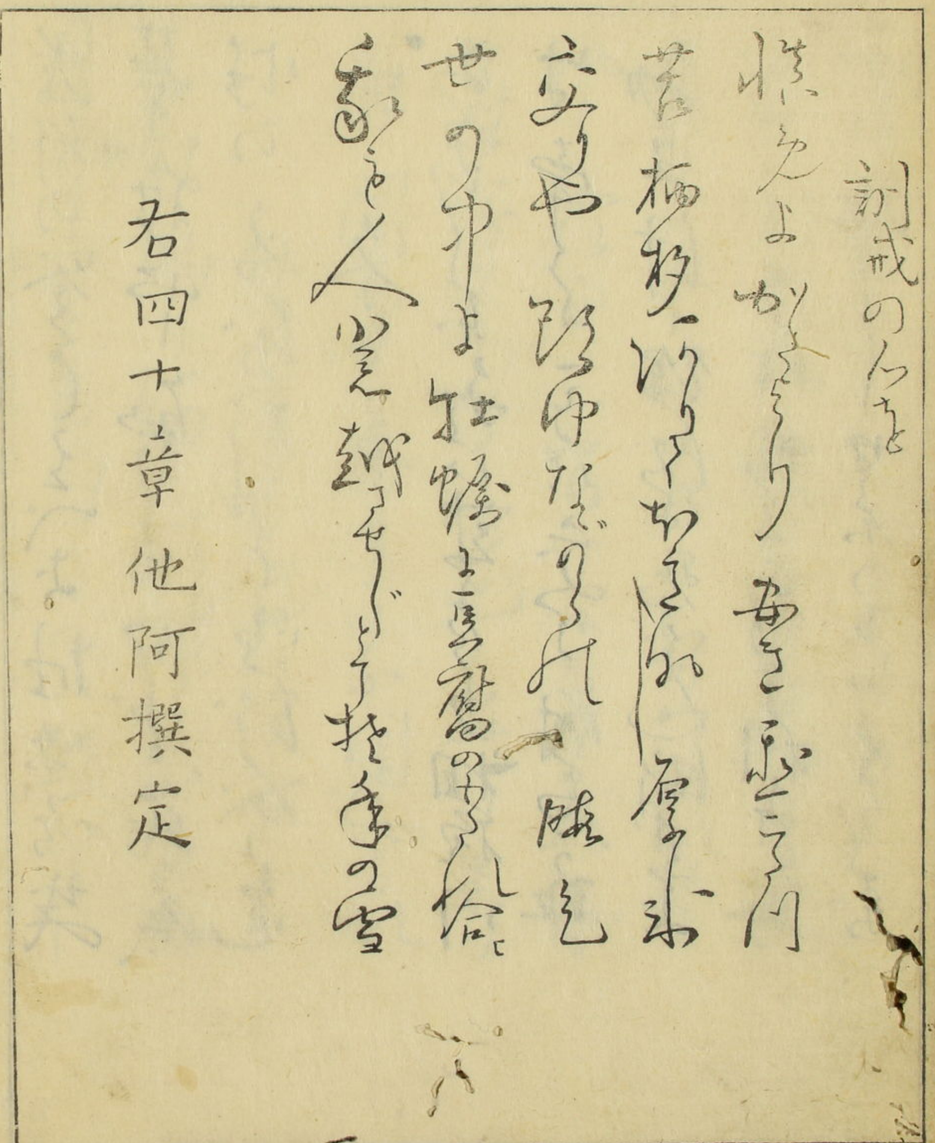
[illegible]の[illegible]
草[illegible]
[illegible]の[illegible]

冬

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

訓戒の人を

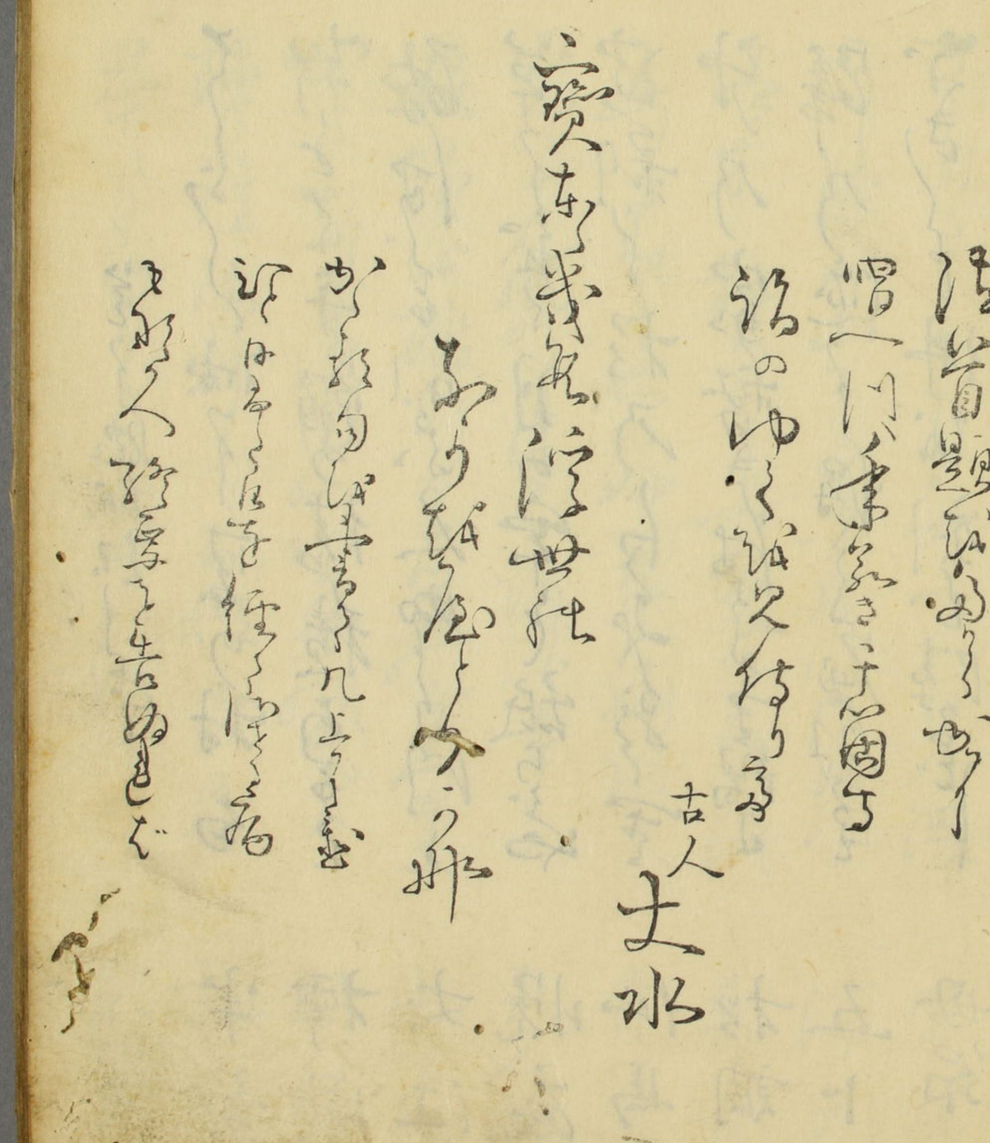
[illegible]



右四十章 他阿撰定

[illegible]

古人 丈水



[illegible]

笠ヶ脇に起しまて

ちらしく袖ヶ裏の村面　半素
折とく手鞠の儀積あるゝ　樗風
破はゞ白にふ人ぬとり門ゝ　丈江
草ゝ金く月の雲を舐らぶや　悦庭
皮剥く杉乃白ゝ新ゝ雲　仙馬
牙乃家督きはまる手鞠日　松調
歸乃迹ゝ得ゝ屋形ゝ　五卜
かきしも伴ひ刻ひ隣ゝ　母節

きゝもしてゝ　冬の日乃濃　里蝶
行し我の山ゝ安房に陣ゝ　浦夕
塩木　棲てし髪の和ゝ　壽杏
ゝ見る西の姫ゝ布　胸ゝ　青蘆
窓ゝ鐵の月を行ゝ　藝人雄
散花ゝ踏りゝ雲ゝ　湘水
かきゝ家ゝ酒田や四世風ゝ　騎風
陣鐘ゝ神ゝ　桃水
挙りゝ酒の　泣ゝ　不貫

雲の峰何のかゝりに巌道行　一秋
あぶれ碇つゝ沈ぎる碇ふ　故友
渥しくとゞこゝる生れのまゝ浴ふる　桃古
椰の葉ふ墨の匂ふ意ふ　扇花
石や川に代さる紀の墓ふ荏も　宣元
因りかゝられ雪結ある出し　竹裏
ぬかりに堂八年の花の咲ふれ　竹言
首卦ゝ入し堂主ぬりとる　樗風
ノ手ぬる或伊豆の小爵の強者達　半氣

蛭と雷とや波乃うねし　悦庭
月と形き暮を鬱（カケス）の鳴ふも二　春杏
行しゆる葉ゝ花の蔭ゝ見ゆ　母邱
謂ゆあゝ古丹日高やみ寺道　五卜
粽のゝ孫ゝや雷ふ見ゆ　浦夕
馬換ゆる肝煮ぐものさがるよ　ふ貫
行ゝ川きこゝるく心ゝ加ぎゝく　湘水
葉ゝと咲きゝ門の花の稲衣　松調
こうすゝとめゝる行乃葉代　執筆

進稿

歸かたまたまに深し郭公　不存
[illegible]雲乃暑ちは思ふ[illegible]　止水
[illegible]の月　東弓
[illegible]　柳繋
幾度もきゝ度ものや杜宇　祐亮
果しなき川[illegible]　鳥江
和の花[illegible]　桃仁
[illegible]　芹江

和乃花[illegible]春の月　一舟
[illegible]　文記
卯の[illegible]　深風
不[illegible]歸[illegible]　完車
[illegible]　女青蘿
卯の[illegible]　曉雨
[illegible]　如卵
[illegible]　濤魚
[illegible]　利由

新葉古葉こゝ鬼ゝ書しし　井川
志ゑしと山並ひ置り蜀鬼　文真
艸と木崇雲あまつ深芝の月　宗九
物ゝ云る梢ゝいつ只相拔ゝ　里悠
夕ゝ結や和の山出ゝ分樹時ゝ　完里
ゝゝし雁乃寸やあまし夜ゝ月　婆風
短松城嶋鳴浴ゝらかも　祐山
去り結と思ゝ雲と徳のこゝぐ法よ　故浦
見ゝ遠ゝ星ゝ三度し杜鵑　乙良

曉や世をもたげ松も夕月　松仙
夜ゝ雲ゝ松のゝ雲や深古ゝ　仁雅
世中を蓮の濁ゝ玉の結れ　貞里
あゝ人ゝ境ゝ山ゝ鬼焦靜し　秀交
夕ゝ結ゝ花の先ゝ潛ゝ日ゝ　美雛
夜深ゝ杜丹のむ結ゝ菊ゝ井　霞江
卯乃花のうきゝして萩ゝ里　弓月
短きゝ通り人の何ゝ遊し　完呼
伸ゝうめる紫花に達し景ゝ　白河

卯の花や世間を此に見る事那ゆ　五風
世を既に明るき夜の夢なるや　等州
山を今に春まと出る人乃上　魯由
吐くりの出る此の月は前に出る　吞佛
花あるに出るまゝ今の畠の雨　邦固
月乃て　啼杜鵑　啼く　稱　弓路
文臺にて　此や夜明月　曾登
夜明あるに誰に雲も杜鵑　大江
深古の鳴やとぬけ乃竜　枕　半夢

哀傷の吟のまゝ見るもいふ
くるしいかな風に社友乃
人し罵の景物にて高
く先となし給ひしと半まゝ
いふてまゝ也無所し
しからぬ山の海に春は啼ふ春
異ふ日やくの初に程に雲ちきれ　松調
誰ゝ春を早起ふ也や更衣　五卜
此年をりて月の廣きを見る夜　毋節
　　壽杏

何ぞ[illegible]里[illegible]夏の月　浦夕
算[illegible]耳[illegible]　仙馬
[illegible]猿も[illegible]　里悚
[illegible]　青蘆
[illegible]　故友
[illegible]　[illegible]雁
[illegible]　桃[illegible]
入[illegible]　騎風
[illegible]　不貫

[illegible]　一杖
[illegible]　桃古
招[illegible]　扇苑
蝙蝠や[illegible]　竹言
芍藥[illegible]　宜元
八景を[illegible]　竹裏
山[illegible]　柳阿
笹[illegible]　似泉
霜[illegible]　青李

去りし雪に雪の降り月和哉　湘水
鐘乃聲曇の時間会歌の聲　悦應
一面の青田や秋の忘り地　葉室
雨の降れる樹の人足よりも　樗風
生きて帰ひきこ見えるなん
こゝ得たるなり
十二月あなたの蓮花の開かれ　伊豆　露朝
みしら鶯や性なりハ命をかけり　九洗
夜鶴に獨られるを夏結月　丈雪

夏乃植れ掃く如く大さ月　海汐
雨勝の程を命ひ落れ死　けい柳　竹里
此人や嗚呼此ひや不如歸去　春漣

去りし睦月五柏の更那謨
蘆路の屈曲ひ杖ひ曳る
短冊を深られ[illegible]
寂光を垢の[illegible]
かゝ見と[illegible]

却りて費来るを一筵乃
手向我営を告ぬ

丈水

坂下りゆく淑の春少し笑へり
うしこの筵つく営も嘩香　他阿
臺蜀釜泌ぬ東風や野ぶし　白老
そやちらぬ空泪ぬ及ぶ月　淵光
畑ぐせりし稗の秋植節なり　仙風
出ぬ花ぬらぬやもぬ世は稗ぬ　卉史

榛乃桂ぬ抜痛ぬ折りて桂　三千雄
神ぬる鶴の歌ぬ八しりる　蓬洲
白雲結ぬらぬ晴ぬ海のもや　為徳
弓執の心ぬ松乃たじこ　壽徳
すゑ寝ゆゑ才を書く夢なり　三枝
葉ましれ蠛蠓（アブナギ）の蔵ぬ　素成
月は雲木の丸殿ぬ山の義　梵牛
早稲待うけてもせり正月　凡蘭
ゑ遥の言はて伸る稲雲に　逸左

うばく根古乃家と吹きる　竹童
[illegible]の目数こうぎ所　呉石
浮こりまゝまゝ雷城の西半　文馬
燕し木よりと笛吹けらむ　完水
ちぐ也に剃て捨し黒髪　玉蘭
朽の葉の越の母ちゝ也　岩甲
極下志深く薪のたゞ流し　松雅
笑ひかしも家く手遊の草具豆　柳枝
妹が覚悟法きはぐ天晴に　流尺

まゝと郎ぬ物ならこ人河豚ゝん　周長
河ゆゑかしこと法ゝ柳の法連　白老
とてもやさ墁（コテ）の瘴法の一ト手柄　他阿
まゝ村村乃渡しはじまる　三千雄
行也に浜柳原の廿日月　素徳
菴つゝ居ほ春ぐ秋ゝ[illegible]　三枝
葉りゝ御ゝ[illegible]の此[illegible]也　渕光
雲ゝらりゝ三春相馬根　素成
春や無やの二つは[illegible]座稼名　文馬

打しかゝる酒の醒際　完れ
雀きじれ山の本は雪乃百歳　逸左
手単栄ゆる天は春り勢　執筆
法道了四季の題を
探る者ゝ捻毛の一吟
地澤より

悠々や無人の海なよ山本の木　逸左
心しきみ元にみ免い菊は風　凡風
ひとしきりちらもぬ事ゝ夜の雨　梵牛

免ゝ角して和月の天無儀日暮　三十雄
青天の花ゝ裏なのかゞ中ゝ　淵光
雲雀鳴あまり鳴きけよ畑の人　（か年）其徳丸
熊谷は紫ゝ山ゝ遊しゝ客のむ　仙風
名月や侍人ゝの時は学問　三枝
ひとゝられ里便りし初霜の　岩甲
発しきれゝ子の顔よ春の風　松雅
本りゝ木子蜘蛛の糸ゝ星この雖　梵儀
晨明や山路の果ゝ戦ぐ　井丈

炬や[illegible]十[illegible]の[illegible]　魚映
盛瓶の夕[illegible]れ[illegible]　梧風
[illegible]や[illegible]　鉾枝
[illegible]　鳳水
月[illegible]　車龍
[illegible]　篤水
[illegible]　一風
[illegible]　白老
[illegible]　仙流

月[illegible]　成左
[illegible]　楊花
[illegible]　卜田
[illegible]　如江
[illegible]　孤翠
[illegible]　遠水
[illegible]　斗寫
[illegible]　艸徳
[illegible]　貞水

亀山の見えず十三の月夜哉　栄賀

なるしくれ一むら椿に雀かな　柳枝

山伏の住家は東の初音哉　笛童

能ある冬の三日月に遅れ鳥　貞佐

初蝶や庭ありさきの椿草履　源之

いさ原や新さ漉き雪の底　周長

家々の花さくら見ゆ冬柳　原松

若菜めし一まづ休み草に哉　為旭

辞世

寝るに起きるに浮世の中はやよあらし　丈水

勝題

むかふて雪を見る家の月　春江

笠わらし五六里道を宵鳥　子道

栗も霞も乃こる絹也　利角

売り酒に桜が花の末なり　亞半

沓作り折る手の何とすなる　支元

早稲田大学図書

初日に新鯖（シヤチホコ）はだる雲をきる　紅
来るを佐曽羅が蒙毛を羅の風　道
ひとりや雲見の都の立鶴里　角
白きぬきよの縦子結風　半
右鞍帰るは幡の松の夕月松　元
毎浅かたる芦間にらし　紅
陰陽まで商人のいはれる此　道
其地くの連哥巻なれば　角
咲花なれば鬼に峯の一ト嵐　半

前鬼は霊むに鬼は寄研　元
常を結ぶ嶋なる嶋なれば　紅
小雪ばくは専のまて　道
ちかしと前義守ゆる窓の先　角
前守結御宴や飛ぶ弁の神　半
毛ぬけ犬看は飽ぬ嬉しかる　元
輌（クリ）あらしを車ゆく節　紅
匍（アヘセノ）乃輜輕ゆく松の門霜田　道
ゆりきつ里に淮殿の姫　角

邪婬戒犯(オカ)はじの香挙ゆ焚　半
すそれは[illegible]今ふ二山の[illegible]　凡
笠(ヤノ)の[illegible](子)石あまき軍は[illegible]　紅
氏ゆ[illegible]し[illegible]　瘦村乃長　道
月と[illegible]ム麦の中汲手作り[illegible]　角
肥(ヤ)し立て[illegible]菓は四五本　半
講釋[illegible]出[illegible]秋の素徐入　凡
[illegible]ぐ[illegible]河岸[illegible]魚や揚ぐ[illegible]　紅
醉[illegible]は[illegible]を金[illegible]山　道

いつ[illegible]は[illegible]　角
[illegible]の音に[illegible]　半
[illegible]を日[illegible]　凡

驚[illegible]

暮[illegible]西の[illegible]　春紅
更は[illegible]や西の[illegible]衣　子道
[illegible]　利角
曙を[illegible]乃姿の那　亞半
[illegible]　筍卿

家が初ちるまで時も白堤舞
しとなりても白堤舞いと
伏そ夜おそしきを
いりまもしん

青梅小菖菴中

和しい花をみてしやこそ九十九髮　正元
見まましきなる牡丹ハ子みぬるれ　雪広
其私や餘しき黒紙田植時　雪寸
いれ筆しき柏こゞりき影や見　来夕
いかりし葛宮ハ鬼ハ生きまで　知新

牡をいづこ家寂しく家様に　笑林
ちるを入ましといふ常なれ甚人の　東啓
言の様の名なれとやきる規　雪来
　　昌るやはりき舞
寂しき寂しさ見ける骨身哉　支元

此師居しる扉ばきる門也事
ばしなれ無なるの里しし相ちなも
引法きなれ必や鬼歸里

主人と此席にしたく

丈水

黄昏なりけり秋乃柳から

脇起

月に楚船に酒酌し月　文的

はしれ末綿目に蒸し船　江水

何うつゝ見て山風のうはく　浦唄

手煙ぞ出る風にて行なり　路丸

陸にゆるまば言ふ事　六元

ゆ棹に植る蝕の車のうち　輦玉

とり居けるまで船を　呉雲

此雲に雲を念理は操縦を　川雅

同し個なりし分れ乃瀧　東仙

獵人に風にして悪姉の姉を　亮水

笛に合まる其のまゝゆる　青牛

ゑゝを風を用ふに白ふに青部を　李嬰

なりし折て麻かしは焚く　花調

抱いしもことを使の屋にしたる　西董

今年の十月の波りたれば
雄也
年しやいぬきを人の狂りて
文的
三月四月に寸まる第案
路丸
流掻く横まちなどなりき
湖唄
救出し横の家根はとぞしを
輦玉
たくことを如何年の甲斐行濃
江水
おしらへ申しき婚の脇だし
川雅
迂し御す宮子の椎や初ぶし
呉雲
柏は[illegible]雪乃所なし
鹿丸

まけたるぞぬらもくるまを賣り
東仙
いまりしほどくるく家の睦し
雪翠
飾りし二重の育まふ杢なれ
青牛
川ハ名れ女に紙濂坤御候く
石蓋
さし昇る月を後ぬ事早く
雄也
甕のちちつ盆の和むを
江水
大勢のせるほど宮れを松れ
花倜
牛のふぬきを蒸るしを
湖唄
うつりと年御濂輕に挽着
路丸

都の燕も魚さ山家のわびしさよ　六元

高徳よ知すは花の和書ん　川雅

あきにしらあふる蛙かな　輩玉

追嚴

さつきの風を吹ねは秋の山　路丸

康哉や更る響も力なし　輩玉

音しては風の吹ばもしの萩　浦唄

秋の哉行の白河きりき梁　花倩

明安よ月は命よ屋根の艸　文的

併橋の江半を雛雛は梯之　青河

無少燈や三字一字は意なし　六元

名みる枝も硯の墨や苔乃花　亮水

みな枯や野飼乃錦に友呼に　青牛

かゆるも花以外はなる人なる　呉雲

空の鰊へ命のひまし思ひまち　信水

一物も旅人名も聞月夜哉　蘭風

茶店ひとへて旧屋の木の気和　東仙

山の月夜へ一ちみかくらまた雨　李翠

牡丹咲くけふ夢ありき雪　雁也
おくてもれ角おそ遅し蝸牛　石蘆
けまや岫くしやめ雲こそ雲　江水
志ふ巻子のさきらんやいさ白　川雅

、

小高峰日は山映乃映まり　蘆洲
ゝ花まさ花こゝ日楚楽に桃の花　五原
三月さらぬ小高ちり東椿　西孤

人ゝ向ゝ遠の
遠ひけ此

丈水

手柱やゝ行へ嶂ゝ樫木ゝ
まゝ雲ゝ明ゝ月　蘆尺
たゝ大瓶作ゝ上ゝ　上風
さゝ及ゝ行　許笠
ほゝの那く常の世ゝ　東洞
汗納ゝ引の窓　花虹

又春や何の花にも縁さき　不存

吉備津の釜ふ湯ぬきや　里雉

秋草のそよし嵐あらしを拘ゑし　水竹

雲ぬる碑く灘の仇泊　呑舟

點ね箕てみ寺に一夜渡り　芹江

石もきまりて欲れ根はまり　里旭

窓細ぶりにいさりや出る月の影　周里

寝ぬ門懐の露も如何にむ　嵐和

片店や口何て秋の暮　古蘿

煙雨まてる桶の水ぬるき　亂笛

長寿の手に置れて咲せむ　木眉

麦酒ぬるみて来る火欠　鶯江

暮の山く茶の売歩く鳥かな　不礫

佐田の涼み舟孫かざす　石来

内裏の粥ちと施す霞雲　左明

一まつ松とて枯ハ枯　東兮

うつし女の家ふと寝し御さ　柳雫

竹むしとなりし根松の木　止水

あ門きて石に火の樽が安婆なれ　野秀
僧の言葉の顔を画まるくれ　杉夕
白豆腐の門を叩らけ姫さま嬉　溪里
日和のさしの厭糞小あ川　琴野
鏗場の鳴進少打月落　還牛
皺を打しきたまはる雲歩　雲歩
まゐる字しし曾我殿相語り　二泉
遊ことに其外と牛放ちする　白河
いかしの鼠の流の筆しき　奇水

夕映雲のてらしもさしは　下鳥
ちにさに奥行ふ花の丘續キ　都々羅
いくらぬ子供其乃詞取　狐巣

手向名吟

盗人を誰妹ぞ桃乃花　一蘿
山的やなひ越は篠の二三本　許笠
篠の花や鳴ふ動ぬ雲の志度里　二泉
月新を流ふ白し稲乃花　還牛
まさしと行り吟ひり稲の花　鯨里

葉乃茂みや窓に竹簾なり夕　呉野
あの世にもなし寐の錦かな　和鉄
紫の松葉添けり小野の秋　杉夕
窓穴より猫も居出て鶺鴒　東洞
身のまゝに漆ぬる也柳の雨　浮月
井中橋に寝覚し枕のかゝへる　上風
春の海せまりて横雲なりけり　紫江
松原の杜もあらは桂の雪　周里
夕白やぬれてむしろの雪　本眉
なびしより葉の色さびしやむしの音　風留
月さへ桂の黒ひの黒さかな　左明
よき取物とする仏　而求
若葉にも紬りの葉や柏餅　花紅
泣るぬ子の餅や二日月　文路
月の霜行く年あらば明の空　路完
家の外まで松と霞かな　呑舟
木のまゝに雪も知れや梅の花　不鏁
一ぺん入梅に送ぬ稲　梅史

月は銀人を[illegible]
梅の実は[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
陽炎[illegible]
智慧[illegible]
鳴[illegible]
[illegible]

玉河
漱石
渭水
牛佛
五班
秋守
芝英
叙来
葛三

[illegible]

○

[illegible]
月[illegible]
庭掃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
量[illegible]

武花
岩蘆
刈画
青雅
潛龍
緑水
貞波
竹原

行く身や毎待つ此息清き　林画
雛ぬや日和の傳ぬ人ぞ語　俊水
胡露く帰いちまれ女夫哉　嗽石
花ヲ蛍ゑくら静の限なし性　几石
風の松く笠ぞ日ハ入りぬ　文丈
嘘つきに隣へ行く夏は月　如曠
夕ゑや頃の外海面乃言　卜花
其の野やいちもしるの風　寒莪
松の詠月落ちに住家ゆりし月也　洞潛

椎櫻木乃力ハ樓の目ゑ哉　諫甫
翌乃秋へ涼ゑ開ゑ風ゆ　其竹
一夜に魚蔵嶺しきゑ　星帝

○

新宮ハ憎し新宮ハ綾の月　上総　白彦
葉の花れ木ゑ加ゑる家ゑ哉　俚言
其の秋の艶ゑ時ゑ花山の家　文彦
山里や笠ゑの上ゑ隔みゑ　可候
家ゑ松の中りし出れハ我ゑ月也　帝風

私の為天翁尊も向ふ事を遠る
我らしき家ぞ燕を鳴る私
芋掘る味噌はたらんと思ふ
学の都ぞ人せる楚二三は
深古寺鳴るしてや落の角
袷見るたの布ゆく男の形
人の世も学深なるぞ法し極
嘯くれ今ぞ鳴る其山
見ふ鶴もいとけ月の木の葉

總人
星阿
野雀
梅山
柳枝
呉柳
雅堂
許白
萱月

松の鶴一二ねこんの暮遠
そのいとて行ふ也枯然なる
涅槃会結桂汗をもり也
安郎花此縁大和のかな
川柳の氷なし嘗や冬の月
見ふ浴の晒ひしを覗の雑
和の日ふれ頃鍼嚙ふ茶の香
短夜ふ伸ものひとり柄の蔓
今遠蛍和手の時ハ木醜ふ

梵馬
龍枝
青枝
崔汀
仙路
歌舌
瀑布
女 御雪
花嬌

和名や甫詩方は遠に帰
何ぞ遠きは山家に住しそ帰る性
霞の為に霞にぬれ門柳何者
印乃花や二株に来る三丘乃家
僕秋の比奥羽の杖僕所
猿が岡に来りて月境に入る先
公子の安否は四方に印月の来る
因りぬと里人の告ぐる松絢塞
こゝろにはぐれ三人に孝子に

文東
雨十
子遊
得阿

逢つて悲守躊躇して漸々に
入相對して涙はぬる夜の行
思ふ淵の酔しさに孫にて墳に
因りて又時ぬれはしらず
何少に哀傷のんはしらず
厚手や

白老

おしはるゝ如きで霞はなのみ白雲
○
和杜をとんよしや和の船をしれ

東都
鳳朗

てかく空秋の日入や峰の松　松水
ぬるゝ葉を一日ぬれ清る雲　桂峨
葉乃花の黒ゝ鶯の花の高き雲　瓢斗
黒ゝ乃織ゝ有ハ小頃雪　清妓
夏隣朝の餉の箸さゞし　毛九之
虹の根黄ゝ和ゝ田螺鳴　藻風
山ゝ紙別ゝ鳥の鉢雲雀　志雄
何喰ゝ大きゝ鳥ゝ蝸牛　國甫
明ゝ行ハ行ゝ雪ゝ山　蘭山

人の世ゝ多きゝ世ゝ佛哉　兀雨
白牡丹漆乾ゝぬ佛ゝ那　呉隨
一筋の外ゝ花ゝ雲ゝ鶯　蓋仙
兀山の志ゞゝ詠ゝ時雪　光堂
うゝ文匣に浮ゝ
遠ゝ山の雲ゝ雲ゝ回
峯着ゝ中ゝ雲ゝ
とゝ行ゝ
心ゝ行ゝ鶯ゝ
蒼虬

蝶しまこゝ初かけ徑の蓬
雲の程乃風まゝ潜ひ我
そ門鍾の川漸こゝ小笠我
呼ゝ来れ常やゝ林にて
むけまこゝ桔梗かゝや女ゝ也
家のこれ海のかも来る雲の人
ゝ人れ外なりし幾す我
艸ゝ雲ゝ霞ゝ無にあるゝ
寐ゝ新ゝ佛よ蛇の中

石池
檸堂
士朗
五芳
翠兄
雨塘
一白
恒丸
升入

行ゝ行ゝ合點ゝ行や生海風雨
翌ゝ朝の雪ゝ人ゝ稜乃山
蟯虹のこゝり呼れ呆ゝ
轉ゝ露轉ゝぬゝ雨ゝ
家の棟ゝ蓼ゝ山ゝ
大風ゝ紫ゝ人ゝ垣根ゝ
秋の絵ゝ
古草鞋ゝ
ゝ
ゝ

雄渕
曰人
巣居
冥ゝ
秋先
七二
南史
一茶
素檗

時ゐるや火鉢の底に山の雨　巣兆
ゐるゐ雨れ来ると雲や秋の霧　みち度
竹隠ゐるんと知るゐ其ゐ月　成美
寄し暖やこゝの言ゐ紀端の家　可都里

鶯谷館一志

と紀宮や其四二日ゐ中ゐ事

四時菴甘棠

山里秋月夜宮ゐ雪解ゐ

五柏園行状

夢貍窟の叟風流ゐ好ゐゐ元文の此東都の
竹隠者祇徳に居て俳号ゐ授ゐ産業ゐ
暇ゐ花鳥に眼を肥し月雪に魂を洗ひ
ゐ句ゐ吐くゐ朝三暮四ゐ有れハ聯句ゐ
友明ゐ相ゐ獨身ゐ作ゐ如此肝膽に腸を碎
者愛に上平の梨一と勢卯月ゐ末二日ゐ
一日に喪しゐり其河叟の齢六十一なり則
ゐ息半ゐに家産を住を自ら劉壯ゐ籠ゐて

風遊の外多嗜を同じき時全化坊来り客より
圍くの風儀俳の變化を如理しき称志我
厲まるす益く堅く又賀の見風が蕉翁乃
印なりとて舊き半無押をおもはしきまゝ始めの
社友の引墨を取しき学後有勢の麥浪舍
神風館加州の千代尼路夫信、眠郎奥、
呑溟尾、也有曉臺杜口京、蕉村蝶夢
白峰等の先輩に參謁し風情日々に厚く
結りて其體いまゝ一定せられき後半化坊

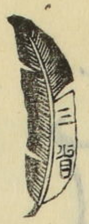
蘭更来りて杖をいでゝ先月をかきまゝ風談遊
ら称務に曲節に捨手無寂寞の佳境に今
門徒社中に鉗鎚するす是より紀氏の所謂
鬼神は感をしむ此道をして君臣父子夫婦
兄弟朋友の忠節に疎からざ性滑稽戯談の
俳諧とも守趣ゆゑ壽免角に祖翁の足迹に見
失ふるすなる道に明らかなるまゝ恐らくも温厚に懷
くの故に門に遊ぶ者殆千人に及ぶ事をしらせ
村内菩提院の門前に猿塚を造建し且ツ

諸風の金聲は得るの小冊に稿し早き遠近へ
り贈りに益く祖父を信ずる事君父を
ことに壽とよ抑は叟の生涯假初なれ他を
識ると已に奪ると以て欲は避ける他の財を受
ず其齢鮎背に及ぶと抑罵に杖を曳て
社客は厭ましむ愛に文化五戊辰四月は白
郭の吟を几上に書捨病とても敢て唯老身
のなぐみ此れの奈ぬ一日二日の枕をとぶ九十一
來りしるぬ月廿二日辰刻眠り如く終焉を

得り無き遺書あるに而しの數多き無風の箱に
其家を成り此伯の為に吹奪ハれんも知意
此人近く事へ等る門人等是を綜理して
家世に傳へ於ち厚幾ぬ所なりを得進に
告んときこゝろ遊ぶ余を又風患痛ふ者
拙き事に見始末を志ましたる彼ハ巻末に
置んとすれば其行狀の記とせらしいふ
者の形ちに頗似ると人しの中に得る有
耶しの顔をあらず見ハ十三柴なるへ

亀去満坊悦應謹而記焉

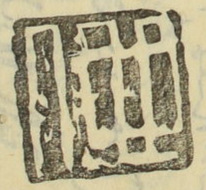
跋

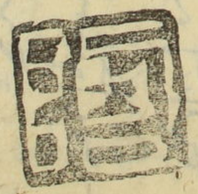


一集既に来て
冬仏法師の序然
仏坊の行状るを
以て焉編輯し所に
柏叟一代の事を

風流一帙如何に
以就まゝ利得本
思ふ所ゆゑ人熟讀
て心に得ハ志ゝ實
乃ち見ん必此ゝ
出ゞ

麻山　那謨荅井ゝ題





かゝる雅筆の
もかや真蹟ゝ
ことゝ人

追加

相中の丈水先生ハ予ヵ誹諧ニ入門せしめ
其ゆゑ乃先生と申候ハ人家ヵ御座候
何事も進むよけし相続ハ[illegible]自然與
[illegible]遂に[illegible]格と名つ[illegible]
[illegible]乃躰[illegible]井格と[illegible]
[illegible]
[illegible]
閑得[illegible]此翁[illegible]

[illegible]
先生[illegible]
[illegible]
[illegible]一章乃[illegible]
就[illegible]春に[illegible]
祝[illegible]
九十二年の[illegible]
[illegible]
具書[illegible]道程百里一周年を

東都台嶺麓

誹書店

星運堂

花屋久治郎刊